

紀勢道整備に伴う地域活性化検討委員会

幹事会 観光振興分科会通信

平成19年11月発行 第2号

基調講演「紀勢道整備に伴う広域的な地域連携とまちづくり」を開催しました。

平成19年10月18日（木）午後6時から、三重県尾鷲総合庁舎5階大会議室にて、基調講演を開催しました。

本幹事会の副幹事長である石阪督規三重大学人文学部准教授が「紀勢道整備に伴う広域的な地域連携とまちづくり」をテーマに、講演会が行われました。

講演会では、三重大学の学生アンケートの結果を踏まえ、「他者との問題意識の共有」「資源の固有化、サービスの質の高さを伝播」等の広域的な地域連携とまちづくりにおける方向性を論じられました。

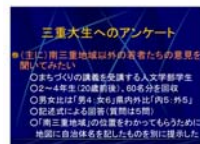
また、基調講演開始前には、本幹事会の幹事長である渡邊悌爾先生よりあいさつの言葉をいただきました。



基調講演終了後には、各分科会に分かれて、それぞれ活発な意見交換を行いました。



▲石阪先生の講演風景



▲基調講演の開催風景

『第2回観光振興分科会』の概要

第2回観光振興分科会の開催概要

<議論の方向性>

広域観光ルートテーマとターゲティングの検討

<提供資料>

- ① アンケート調査等による観光分析
- ② 地域の食材リストの整理
- ③ 拠点施設の概要整理
- ④ 地域観光資源ポテンシャルマップ

事前に資料を配布し、当日の分科会に望んでもらいました！

<分科会メンバーの主な検討事項>

■ 広域観光ルートテーマの検討

- テーマの主軸となる資源の検討
- ルートテーマの設定
- ターゲットの設定
- 地域資源の活用方法

■ 拠点施設との連携方策検討



観光振興分科会開催風景

南三重地域の「食材リスト」 NO. 1

食材番号	1	対象地域	供給所
名 称	カブオのかま焼き		
キャッチコピー	歴史のよつと		
分 類	形焼	和南支那	和南支那の産品
<p><解説> カブオの骨とそのまわりの肉の部分を焼いたもので昔から食われてきた伝統的味である。3割は加工した肉の部分を塩でつくって、肉の上で2時間程度、焼いて出して出来上がり。食べられるのは骨の支那の肉の部分と細い骨であるが、噛み砕かれたカブオのうまみを感じる事ができる。</p>			

南三重地域の「食材リスト」 NO. 9

食材番号	9	対象地域	供給所
名 称	赤いおにぎり		
キャッチコピー	職人技に負けてもらいたいおにぎり		
分 類	和南支那の産品	和南支那	和南支那の産品
<p><解説> 職人技で作られるおにぎり。赤いおにぎりを考案されたのは、職人技で作られるおにぎりに対して、職人技で作られるおにぎりに対して、職人技で作られるおにぎり。赤いおにぎりを考案されたのは、職人技で作られるおにぎりに対して、職人技で作られるおにぎり。赤いおにぎりを考案されたのは、職人技で作られるおにぎりに対して、職人技で作られるおにぎり。</p>			

食材リストを作成し、「食」の魅力を検討しました！

■第2回観光振興分科会の検討結果の報告

第2回観光振興分科会では、「熊野古道を主軸とした観光資源の組み合わせによるルートテーマの設定」をメンバーが考える方向性としてしました！

<ルートテーマの設定について>

- ・地域にしかないものが「熊野古道」。主軸として欠かせない。食の紹介は重要⇒熊野古道+食、熊野古道をベースに資源を付加していくことが重要。
- ・「ご利益」は主軸になり得ない。何かのついでによってもらうのがよい。
- おもしろさはあるが、それだけではツアーに値しない。
- 伊勢神宮レベルであればよいが、地域内の資源では特徴がない。
- 「縁結び」もあるが、その効果は低い。他地域でメジャーな場所がありすぎる。
- その地域の歴史や文化を紹介できる方がよい。
- 商品化することは困難であると思われる。
- ・温泉の知名度は低いし、数も少ない。温泉の効用だけで健康になれる発想はよくない。
- ・(例)として温泉+ご利益をセットにし「ロコミ」で評判を上げていく。ニーズがあれば観光テーマの主軸にすることも可能。
- ・体験もどこでもやっている。昔ながらのイベントの開催や参加者のストレス解消に繋がるとよい。

<食の取り扱いについて>

- ・「どこで買える」「どこで手に入る」といった情報を提供しなければならない。
- ・積極的なPRが必要
- ・「えごまもち」などお菓子系の食材を宿泊施設で必ず提供してもらえることが必要。また、地域の名産品をメニューに追加してもらうことも必要。

<観光の方向性について>

- ・全体的なストーリーづくりが必要。
- ・「癒し」と「ほっとする」地域にしていく。
- ・宿泊施設も、時間（何時に来て、何時に帰ってもよい）にとらわれない仕組みが必要
- ・何も無い場所でゆっくりしてもらえることが必要。
- ・「バタバタしない」「のんびりできる」ことを魅力にしてはどうか。

<拠点施設との連携について>

- ・拠点施設での情報発信は、来訪者の動向を踏まえて検討する。
- ・拠点ではあるが、一つの観光資源として扱うべき。
- ・地元にも活用してもらいたい。地元で受けが悪いものは、成功しないのでは。

<時間短縮効果について>

- ・熊野へのスポーツ合宿の宿泊施設を南三重地域内に分散できる。

今後の方向性

分科会メンバーが考える方向性！

- 熊野古道を主軸とした観光資源の組み合わせによるルートテーマの設定
- キーワードは、「癒し」「ほっとする」「バタバタしない」

①広域観光ルートテーマを考える

- 熊野古道を主軸としたモデルルート
- ニーズが期待できる組み合わせやテーマ等

②有効な活用方策方法を考える

- 情報発信方法、円滑な誘導方策等
- 広域に連携して情報発信を行う一元化組織体制の構築

今後の予定 → 次回の分科会は、平成19年11月21日（水）に開催します

<主な検討内容>

- 広域観光ルートテーママップの内容検討
- 観光情報発信ツール、発信場所について
- 主要拠点と連携した観光情報ネットワークのあり方 など

意見を募集します！

観光振興分科会以外の幹事様からも積極的な意見を募集したいと思います。

● 問い合わせ・連絡先

紀勢道整備に伴う地域活性化検討委員会

<事務局>

東紀州観光まちづくり公社

<問合せ先>

□紀北事務所（担当：松田）

電話：0597-23-3784

FAX：0597-23-3785

E-mail：matsuk15@pref.mie.jp

□紀南事務所（担当：大崎）

電話：0597-89-6172

FAX：0597-89-6184

E-mail：oosaki@kassay.org

右記問合せ先まで

ご連絡下さい